

3期に分け、国内外の気鋭作家たちが作品を企画・展示

Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展

— 遊ぶ、演じる、こだまする アートがつなぐ人とまち —

第1期：2020年7月23日(木・祝) - 2021年8月29日(日) 十和田市現代美術館

【第2期：2021年9月18日(土) - 2022年1月10日(月・祝) / 第3期：2022年1月22日(土) - 2022年5月29日(日)】



松原 慈《真実／自由》2020年
「Arts Towada 十周年記念 インター + プレイ」展 展示風景
(十和田市現代美術館、青森、2020年) 撮影：小山田邦哉

十和田のまちを美術館にするプロジェクト“Arts Towada”が10周年を迎えるのを記念して、全3期にわたって開催される展覧会「インター + プレイ」展。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第1期の開幕を長らく延期しておりましたが、2020年7月23日(木・祝) - 2021年8月29日(日)という会期で開催する運びとなりました。

新しい創造を生みだし、インスピレーションの源泉となってきた Arts Towada の中核、十和田市現代美術館は、アートを通じて人と人、人とまちが出会う、インタープレイ(相互作用)の現場であり続けてきました。本展は、その精神を体現するものです。3期を通じて、身近なものをモチーフに私たちの五感を刺激する作品をつくる鈴木康広が、ベンチにもなる大型の野外彫刻を設置。引力をもち、そのパワーが外側へと広がっていく十和田の姿を表現しています。また、近年芸術祭や大規模個展で注目を集めている目[mé]は、まちなかの建物に真っ白なギャラリー空間を唐突に出現させます。

美術館内では、鏡とビデオカメラとプロジェクターを使い、見る人の感覚を攪乱する津田道子のインスタレーション、音に身をゆだね溶け込んでいく感覚をもたらす evala の作品、十和田での滞在調査を踏まえ(赤)をテーマに制作される松原慈の新作を展示します。また、会期中には問題行動トリオが美術館の展示室で、音楽とダンスの公演を行います。

- 全期・・・鈴木 康広 [十和田市現代美術館 前庭に展示]、目 [mé] [十和田市まちなかに展示]
- 第1期出展作家・・・津田 道子、evala、松原 慈
- パフォーマンス・・・問題行動トリオ(野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理) [会期ごとに1回ずつ開催予定]

第1期の見どころ

1. 美術館の外に飛び出す鈴木康広の野外彫刻や、目[mé]によるまちなか展示
2. 新しい感覚を呼び覚ます津田道子・evala・松原慈の室内展示
3. 問題行動トリオが美術館で初の実験的音楽・ダンス公演

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 第1期の見どころ 】

1. 美術館の外に飛び出す鈴木康広の野外彫刻や、目 [mé] によるまちなか展示

十和田市現代美術館の前庭で、鈴木康広による野外彫刻が展覧会開幕に先駆けて公開中です。これは十和田市の形をした切り株型のベンチで実際に腰掛けることができます。十和田の引力に引き寄せられ落ちてきたりんごのつくる波紋が、十和田の外にも広がっていくイメージです。現代アートチームの目 [mé] は、まちなかの建物に、突然美術館の一室が飛んできてスポットはまったかのような作品を作ります。美術館がまちに広がっていったような作品です。

2. 新しい感覚を呼び覚ます津田道子・evala・松原慈の室内展示

企画展示室では、いずれも来場者の中に没入するような、新しい感覚の展示を行います。津田道子の展示は鏡とビデオカメラとプロジェクターと素通しの枠が設置されており、その間を歩いていくとふとした瞬間に自分の後ろ姿が見えたりする、視界を攪乱するような作品。evala は音に身体が溶けていくような、没入感のあるサウンドインсталレーションを展示します。松原慈は十和田湖の岩肌や地底の下でいまも燃え盛る炎からインスピレーションを得ました。赤を基調にした展示は、体内と地球が響き合うような体験をもたらします。

3. 問題行動トリオが美術館で初の実験的音楽・ダンス公演

音楽家の野村誠、ジャズ舞踊家の佐久間新、コンテンポラリーダンサー砂連尾理の3名が、音楽とダンスで「問題行動」に迫るプロジェクト。3名はそれぞれ、世界中で人や空間と関わり合い独自の表現を生み出しています。今回は、美術館の展示空間とコラボレーション。普段は入ることのできない夜の美術館に潜り込み、展示作品と空間と対話しながら実験的なパフォーマンスを展開します。何が起こるか分からない、壮大な遊びを体験してください。

【 第1期 関連イベント 】

■ ~~第1期、本展出展作家による、オープニングトーク~~ ※中止

~~日 時：4月18日（土）14:00 - 16:00~~

~~会 場：十和田市現代美術館 市民活動スペース / 料 金：無料 ※要企画展チケット~~

トーク中止の代わりに、第1期出展作家のインタビュー動画を美術館 web サイトにて公開いたします。※8月上旬予定
URL: <http://towadaartcenter.com>

以下の各イベントは当初の予定より、日程、内容を変更して開催いたします。
イベントの最新情報は随時Webサイトでご確認ください。

■ 松原 慈レクチャーパフォーマンス「赤の謎かけ」 + 金澤 韻（本展キュレーター）との対談

内 容：「インター + プレイ」展 第1期の出展作家・松原 慈によるレクチャーパフォーマンスと、本展キュレーター・金澤 韻との対談を、企画展示室よりライブ配信いたします。

日 時：7月19日（日）14:00 - 15:30

※ 本イベントは、十和田市現代美術館 YouTube チャンネルでのライブ配信となります。
企画展示室内にてのご観覧はいただけませんのでご注意ください。

■ 問題行動トリオ パフォーマンス

日 時：未定 / 会 場：十和田市現代美術館 展示室

■ 問題行動トリオ ワークショップ

日 時：未定 / 会 場：十和田市現代美術館

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 出展作家プロフィール & 参考作品 】

■ 通年展示

鈴木 康広 (すずき・やすひろ)



photo: Masako Nakagawa

アーティスト。1979年静岡県生まれ。身近なものに新鮮な切り口を与える作品によって、もの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。2014年に水戸芸術館、2017年、箱根彫刻の森美術館(神奈川)にて個展を開催。瀬戸内国際芸術祭 2010に出展した《ファスナーの船》は、2018年には隅田川を航行し話題に。2011年、第4回モスクワビエンナーレ(ロシア)出展。第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016(イギリス) 日本代表。2014年毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

鈴木 康広 《はじまりの果実》
「Arts Towada 十周年記念 インター + プレイ」展 展示風景
(十和田市現代美術館、青森、2020年) 撮影: 小山田邦哉

目 [mé]



photo: Takahiro Tsushima

2013年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。主な作品に《たよりない現実、この世界の在りか》(資生堂ギャラリー、東京、2014)、《Elemental detection》(さいたまトリエンナーレ、2016)などがある。



目 [mé] 出品予定作品ブラン

■ 第1期 出展作家

津田 道子 (つだ・みちこ)



美術家。1980年神奈川県生まれ。東京芸術大学大学院映像研究科で博士号を取得。映像の特性にもとづいたインスタレーションを制作。近年は、神村恵とのユニット「乳歯」としてパフォーマンスも行う。主なグループ展にあいちトリエンナーレ 2019、六本木クロッシング 2019 展「つないでみる」(森美術館、東京)、個展に「The Day After Yesterday」(TARO NASU、東京、2015)などがある。2010年に青森公立大学国際芸術センター青森にて滞在制作。2019年にACCのグランティとしてニューヨークに滞在。

津田 道子 《あなたは、翌日私に会いそこに戻ってくるでしょう。》
「Arts Towada 十周年記念 インター + プレイ」展 展示風景
(十和田市現代美術館、青森、2020年) 撮影: 小山田邦哉

evala



音楽家、サウンドアーティスト。1976年京都府生まれ。立体音響システムを新たな楽器として駆使し、2016年より新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」を始動。音が生き物のように躍動的にふるまう現象を構築し、新たな音楽手法としての“空間的作曲”を提示する。代表作に《大きな耳を持ったキツネ》(Sonar+D、バルセロナ、スペイン、2017)、《Our Muse》(ACC、光州、韓国、2018)、SONY Sonic Surf VRを用いた576ch音響インスタレーション《Acoustic Vessel Odyssey》(SXSW 2018、オースティン、アメリカ)を展開する。また舞台、映画、公共空間においても多彩なサウンドプロデュースを手掛けている。2020年1月、暗闇の中、映画を「耳で視る」というコンセプトのもと、インビジブル・シネマ「Sea, See, She - まだ見ぬ君へ」を世界初上演した。<http://evala.jp> <http://seebyyourears.jp>

evala 《Sea, See, She - まだ見ぬ君へ Live Ver.》
(スパイラルホール、東京、2019年) 撮影: 黒羽 政士
※参考作品

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報: 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

松原 慈 (まつばら・めぐみ)



© Matteo Lonardi

1977年東京生まれ。イメージ、テキスト、光の現象などさまざまな表現で編まれた空間を作り、存在/不在の絶妙なバランスを模索する。主な個展に「The Blind Dream」(Douiria Mouassine Museum、マラケシュ、モロッコ、2014)、「A proposal for a textbook to learn Braille, English, and other languages」(Fonderia Artistica Battaglia Milano、イタリア、2015)、近年の展覧会に第21回 DOMANI・明日「平成の終わりに」展(国立新美術館、東京、2019)、「Poétique du geste」(La Graineterie - ウィユ市現代美術センター、フランス、2018)、あいちトリエンナーレ 2016(愛知県美術館、2016)、第6回マラケシュ・ビエンナーレ(エル・バディ宮殿、モロッコ、2016)がある。また、2002年より有山宙と共同主宰している建築スタジオ ASSISTANT では建築作品を手がけ、代表作に《33年目の家》(奈良、2013)、《コロガルパビリオン》(YCAM、山口、2013)、《IT IS A GARDEN》(長野、2016)。

松原 慈《Jnan Sbil / Freedom Garden》2014年
「The Blind Dream」展 (Douiria Mouassine Museum、モロッコ) ※参考作品

■ パフォーマンス

問題行動トリオ (野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理)

2018年、香港の大型福祉施設に野村誠が3ヶ月レジデンスしているところ訪問した旧知のダンサー二人と結成した。2019年、「ノムラとジャレオとサクマの問題行動ショー ヨソモノになるための練習曲」(豊中市立文化芸術センター、大阪)を開催。

野村 誠 (のむら・まこと)



作曲/ピアニスト 1968年名古屋市生まれ。個展「Organic Vegetable」(アートスペース虹:京都)、グループ展に、「肌理と気配」(ACAC:青森)、「Archway Sound Symposium」(Five Years Gallery:ロンドン)、「野村誠の音楽室」(広島市現代美術館:広島)、「Notations 21」(Jeanie Tengelsen Gallery 他:アメリカ)など。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。

問題行動トリオ《TOYONAKA ART TRIBE #2
ノムラとジャレオとサクマの「問題行動ショー」ヨソモノになるための練習曲》(豊中市立文化芸術センター、大阪、2019年) ※参考作品

佐久間 新 (さくま・しん)



photo: 草本利枝

ジャワ舞踊家 1968年大阪市生まれ。コラボ・即興・コミュニケーションに関わるプロジェクトを推進。からだに問いかけることとそこから生まれる言葉で話す「からだトーク」(大阪大学)、障がいのある人と新しいダンスを創る「ひろのダンス」(たんぼぼの家・奈良)等。共著に「ソーシャル・アート障がいのある人とアートで社会を変える」(文芸出版)。

砂連尾 理 (じゃれお・おさむ)



photo: 三浦博之

振付家/ダンサー 1965年大阪市生まれ。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、障がい者や高齢者、避難所生活者などとのプロジェクトも手がけ、アートと社会を繋ぐ活動を展開している。著書に「老人ホームで生まれたくつつつダンス>-ダンスのような、介護のような-」(晶文社)。立教大学映像身体学科特任教授。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報: 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

■第2期以降の出展作家

トマス・サラセーノ (Tomas Saraceno) 〈第2期、第3期〉

1973年トウクマン(アルゼンチン)生まれ。ベルリン在住。芸術、生命科学、社会科学など様々な分野に基づき制作を行う。宙に浮く彫刻やコミュニティプロジェクト、鑑賞者が内部で過ごすことができるインスタレーションを通じて、持続可能な新しい生き方や、自然環境への向き合い方を鑑賞者に問いかける。サラセーノは、多分野を横断する芸術コミュニティ Aerocene の活動の一環として、環境を損なうことなく空気を利用した作品《Museo Aero Solar》や、燃料を使わない気球での飛行プロジェクト《Fly with Aerocene Pacha》などを展開している。また、蜘蛛の巣への関心から制作したウェブ上のプラットフォーム Arachnophilia.net や Arachnomancy App で、《Mapping Against Extinction》プロジェクトの活動も行っている。近年の展覧会に、「Aria」(ストロツツイ宮、フィレンツェ、イタリア、2020)、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア、2019)、「ON AIR」(パレ・ド・トーキョー、パリ、フランス、2018)がある。

水尻 自子 (みずしり・よりこ) 〈第3期〉

映像作家。1984年青森県十和田市生まれ。体の一部や身近な物体をモチーフにした感性的なアニメーションを制作する。文化庁メディア芸術祭アニメーション部門 新人賞、ベルリン国際映画祭 短編コンペティション正式出品など、国内外の映画祭で上映・受賞多数。

青木 千絵 (あおき・ちえ) 〈第3期〉

漆彫刻家。1981年岐阜県生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士課程修了。現在、同大学助教。漆の持つ深い艶から創造を掻き立てられ、人間の存在をテーマに作品制作を始める。人体と抽象形態が融合した独特のフォルムを追求している。主な展覧会に「ヒトのカタチ、彫刻」(2014、静岡市美術館)、「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」(2017、ミネアポリス美術館/アメリカ)ほか国内外の展覧会に多数参加。2019金沢・世界工芸コンペティション優秀賞受賞。

【開催概要】

- 展覧会名： Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展 第1期
 会 期： 2020年7月23日(木・祝) - 2021年8月29日(日)
 ■第2期：2021年9月18日(土) - 2022年1月10日(月・祝)
 ■第3期：2022年1月22日(土) - 2022年5月29日(日)
 開館時間： 9:00 - 17:00 (入場は閉館の30分前まで)
 休 館 日： 月曜日(祝日の場合はその翌日、ただし8月3日(月)、10日(月)、11月2日(月)は臨時開館。
 12月以降の臨時開館、休館については美術館 web にてお知らせいたします。)
 会 場： 十和田市現代美術館
 観 覧 料： 企画展+常設展セット券 1200円。企画展の個別料金は一般 800円。
 団体(20名以上) 100円引き。高校生以下無料。
 主 催： 十和田市現代美術館
 協 賛： クリエーション バウマン ジャパン
 協 力： 青森公立大学国際芸術センター青森
 後 援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会
 キュレーター： 金澤 韻、鷺田 めるろ
 アシスタントキュレーター： 見留 さやか、中川 千恵子、里村 真理

Arts Towada とは

十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観を作り出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada」計画に取り組んできた。この計画は官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体を一つの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくという世界でもまれな試みである。アート作品に加え、十和田市の歴史や美しい自然、そして地域のもつ活力を引き出し未来へつなげていくような仕掛けを随所に盛り込むことで、十和田市を個性あふれる『アートの街』『感動創造都市』として国内外の多くの人々に印象づけることを目指す。その中核施設となる十和田市現代美術館が2008年度に開館、引き続き美術館向かい側の跡地の整備およびシンボルアートの設置を行い、Arts Towadaは2010年春に完成。

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティスト33組の作品38点を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行

<input type="checkbox"/> 図版 1 	<input type="checkbox"/> 図版 2 	<input type="checkbox"/> 図版 3 	<input type="checkbox"/> 図版 4 	<input type="checkbox"/> 図版 5 
<input type="checkbox"/> 図版 6 	<input type="checkbox"/> 図版 7 	<input type="checkbox"/> 図版 8 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 9 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 10 (ポートレート) 
<input type="checkbox"/> 図版 11 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 12 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 13 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 14 (ポートレート) 	<input type="checkbox"/> 図版 15 (ポートレート) 

媒体名 _____

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)

御社名 _____

御担当者名 _____

所在地 〒 _____

電話 _____

メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報 : 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com